



英知
誠実
健康

学校だより

若鷹

尾張旭市立旭中学校
令和4年度1月号

新たな年を迎えて

校長 浅野 謙一

新たな年を迎えました。保護者の皆様におかれましても、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、2023年、今年の干支は何でしょう。干支を聞かれて十二支の「卯年」と答える人も多くいますが、本来の干支でいうと「癸卯（みずのと・う）」が正解です。この干支には、特別な意味が込められています。

干支は「十干」と「十二支」の組み合わせです。「十干」は、甲（こう：きのえ）、乙（おつ：きのと）、丙（へい：ひのえ）、丁（てい：ひのと）、戊（ぼ：つちのえ）、己（き：つちのと）、庚（こう：かのえ）、辛（しん：かのと）、壬（じん：みずのえ）、癸（き：みずのと）の総称で、もとは1から10までものを数えるための言葉です。「十二支」は、子（ね：ねずみ）、丑（うし）、寅（とら）、卯（う：うさぎ）、辰（たつ）、巳（み：へび）、午（うま）、未（ひつじ）、申（さる）、酉（とり）、戌（いぬ）、亥（い：いのしし）と、その年を12種類の動物になぞらえたもので、年の他にも時刻や方角を表すことがあります。

つまり、2023年の「癸卯（みずのと・う）」には次のような意味が込められています。「癸」は第10位であり、物事の終わりとは始まりを意味する他、「揆（はかる）」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味だと言われています。「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、また、「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があると言われています。この二つの組み合わせである癸卯には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しているといえそうです。

今年も新型コロナウイルスの感染拡大が、私たちの生活に大きな影響を与え続けることになると思います。しかし、一方で徐々に感染状況が好転し、コロナからの回復の兆しが見え始めてもいます。2023年が、今までの数年間から大きく「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」する年になってほしいと思います。そして、今後は、withコロナの学校生活を考えていく上で、簡単に「やめる」「変更する」のではなく、「何のためにやるのか」「どうすればうまくいくか」を学校全体で知恵を出し合っていきたいと思っています。

新聞報道等でご存じの方もおられると思いますが、今後3年をめぐりに、教員の働き方改革の一つとして、部活動の地域移行が進められていきます。尾張旭市でも現在、議論が進んでおり、中学校の部活動の在り方が大きく変わっていきます。何卒、ご理解をいただきますようお願いいたします。

社会人に学ぶ会

1月18日（水）に、1年生の総合的な学習の時間で「社会人に学ぶ会」を行いました。この会は、社会人の生の声を聴き、「働くこと」を具体的にイメージし、自分に置き換えて、将来どのように働きたいかを考えるきっかけにすることを目的としています。今年度は、環境活動家の谷口貴久さん、尾張旭市役所の中川暢頭さん、訪問看護ステーションふれあいの伊佐治知加子さん、中部フーズ株式会社の坂口英輝さん、三菱重工業株式会社の村上弥さん、デザイン工房光の安藤友治さん、ティップス・インターナショナルスポーツプロダクションの渡邊紘史さん、国際協力機構 JICA の鶴飼郁江さんの8名をゲストスピーカーとしてお招きしました。

仕事内容や1日の仕事の流れ、その仕事に就いた理由、それぞれの仕事における体験談など興味深い内容で、どの生徒も真剣に話を聴く様子が見られました。印象的だったことは、どの講師の方の話にも、「これさえできればよいというものではなく、幅広い知識を得たり、経験をしたりすることが大切」「自分のためではなく他の人のためにすることが、やりがいでもあり、結果として自分のためにもなる」といった趣旨の内容が含まれていたことです。生徒たちからよく聞く「何のために勉強するの?」「なんで〇〇をやらなければいけないの?」という質問の答えがここにある気がしました。学ぶ会で聴いた貴重な話を、生徒たちそれぞれがよく考え、自分の将来に少しでも生かしていただければと思います。

